

## 地域と連携したキャリア教育

大正大学 地域創生学部 教授 浦崎 太郎

(はじめに) 以下の各項目と同じタイトルのYouTube動画を、各項目に示した視点をもって、ご視聴ください。動画でご紹介する事例は高校生が中心ですが、小中学校の先生方は「そのために中学校卒業までにどのような姿に育て上げればよいのか?」を、地域の皆さまは「そのために学校とどんな関係を築き、どう関わっていけばよいのか?」を、それぞれイメージしてご視聴いただければと思います。

### ■ 近年どんな高校生が育っているか? (該当YouTubeなし)

- ・ 「社会と関わる感覚」や「地元回帰性」は、少し前の生徒と、どんな違いがあるか?
- ・ このような人材の育成に学校として関わる意義は何か?
- ・ このような人材が学年規模で地域に送り出される場合、送り出されない場合で、地域の将来はどのように変わってくるか?

### ■ 探究とは何か?

- ・ 問いをつくるのは誰か? また、問いはどのようなプロセスを経てつくられるか?

### ■ なぜ公正に個別最適化された学びが必要なのか?

- ・ AIが人間に追いつけないのは、どんな能力か?
- ・ AI社会(Society 5.0)を生きる次世代に、なぜ探究が必要なのか?
- ・ 探究学びを学校の中に閉ざしてはならない理由は何か?
- ・ 日本の教育は AI社会(Society 5.0)への対応以前に、情報社会(Society 4.0)への対応はできているのか?
- ・ 私たち自身を含め、情報社会の今を生きるために必要な態度や能力は何か?
- ・ なぜ、情報社会では個性を最大限に開花することが必要なのか?
- ・ 地元回帰と個性の開花は、どのようにつながっているか?
- ・ なぜ、次世代の育成に「公正に個別最適化された学び」が必要なのか?

### ■ Society 3.0 の教育 vs 4.0 の教育

- ・ これまで児童生徒の管理統制を是としてきた産業的な背景は何か?
- ・ 3.0的な感覚・意識・態度で教育活動を行っている時、それを自覚できているか?
- ・ Society 4.0 に必要な態度や能力を育む授業をできているか?
- ・ 学習指導要領の趣旨や内容を、Society 4.0 とつなげて理解できているか?

### ■ 平成期の学力向上策とは何だったか?

- ・ 学びの自走性を車の走行に喩えるとどうなるか?
- ・ 学校教育は「学びの自走性」を高めてきたか?
- ・ 「学びの自走性」を高めるにはどうすればよいか?

### ■ 高校との協働を期待する地域の心得

- ・「愛郷心を高める」の前提は何か？・・それは Society 4.0 に適合しているか？
- ・どのような人々、どのような地域が、経済的にも活力を増しているか？
- ・地元を離れる生徒、地元に残る生徒、それぞれ、どんな態度や能力を育むことが重要か？

#### ■ 高校生の地域探究 課題設定の8箇条

- ・個別最適化と持続可能性を両立する秘訣は何か？

#### ■ 今こそ教職員とPTAは連携を

- ・なぜコロナ禍の今、PTAとの連携が必要なのか？（なぜPTAなのか？）

#### ■ 連携拡充の鉄則は「ゴールとストーリーの共有」

- ・連携は、どこからどのように始めるのがよいか？

#### ■ 共助・元服の現代的再生

- ・なぜ今「共助」の再生が必要なのか？
- ・児童生徒に「共助」の態度や能力は身につけているか？
- ・地域課題解決型キャリア教育は地域の持続可能性とどうつながっているか？

#### ■ 仮説形成能力をどう育成するか？

- ・仮説形成能力は職業生活とどのようにつながっているか？
- ・地域に提案する際、どんなプロセスが期待されるか？・・それは探究とどうつながっているか？
- ・地域でプロジェクトを「実行」まで進める意義は何か？

#### ■ 高校生を地域に返す重要性

- ・地方の事業者は産業人材の育成や採用について、どのような思いを持っているか？
- ・学校が児童生徒を抱え込むと、地元への就職や回帰にどんな影響を及ぼすか？

#### ■ 地元定着は「大人との対話」が鍵

- ・大人との対話は、愛郷心や地元回帰性にどのような影響を及ぼしているか？

#### ■ 地元高校生との対話は産業人材育成・採用の先行投資

- ・学校は経済界や企業とどのように関わっていけばよいか？

#### ■ 高校にとっての地域 vs 行政にとっての地域

- ・両者の認識には、どのようなズレがあるのか？
- ・放課後や土休日等の地域活動に、教職員はどのような態度で臨むのが適切か？

－ 以上 －